

入学予定者ら学び想像 八学大むつキャンパス公開



4月に開校する八学大むつ下北キャンパスを見学した参加者たち＝27日午後、むつ市

八戸市の八戸学院大学は、27日、来月開校する同大むつ下北キャンパスを一般向けに公開した。入学予定者や保護者、地元の中高生らが新たなキャンパスを見学し、看護学科での学びのイメージを膨らませた。

同大健康医療学部看護学科のみを設置する同キャンパスには11人が入学し、来月8日から授業に臨む。平日のうち週3日は八戸市美保野キャンパスとつなぐオンライン講義を、残る2日はバスで同市に向かい、同キャンパスでグループワークや演習科目の講義を受ける予定。

むつ下北キャンパスには

教員1人と事務職員2人が常駐する。2026年度以降は教員を増やすほか、近くのむつ総合病院や地域の保育園、介護施設での実習を行う方針。

27日は、50人以上が参加し、真新しい白を基調としたキャンパスで、四つの講義室のほか、研究室や実習室などを見学した。むつ市出身で、入学予定の阿萬末菜さん(18)は「きれいなキャンパスで勉強に励めるのがうれしい。八戸の学生との交流も楽しみ」と笑顔を見せた。大間高校2年の山崎紋奈さんは「高校を卒業したらここに通いたいと思った」と話した。

木村緑むつ下北キャンパス長は、地域の健康課題をテーマにした講義を進める考えを示し「むつ市を中心に下北一帯を医療圏域と捉え、地域に足を運ぶ学習に注力したい」と述べた。

(川越真也)